ちば里山新聞

（第18号）
編集　発行　ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓２号 580−148
電話　0438-62-8895
題字　倉島　貴浩
（ワークホーム里山の仲間たち）

「アメリカにも里山はあるの？」

去年の８月に実施した「学生対象の里山体験講座」に参加したアメリカミシガン州出身で東京大学大学院生のＪＡＹさんに「アメリカの里山」をテーマに記事を書いてもらいました。

名前：Gerald（Jay）Bolthouse
アメリカのミシガン州出身。
2002年に英語の先生として始めて日本に来日し、千葉県の市川市に勤めていた。
その後、2004年～2006年までアメリカのワシントン州で、修士論文として「里山」という概念を研究した。
2007年に日本の東京大学博士課程に留学し、コミュニティフォレストを研究している。
日本では、３Ｓが好きである。相撲、酒、里山。

僕の研究テーマは、「里山」。といつも自己紹介すると、いろいろな質問が返ってくる。この記事では特に、「アメリカに里山はあるのか？」という問に着目したい。この問に答えるのはちょっと難しい。まず、アメリカは、広い。よって、いろいろな景観が存在する。けれども、千葉県に代表的な、谷津田や平地林という里山景観はアメリカで見たことはないので、その意味では、アメリカには里山はないかもしれない。

でも答えはそんなに簡単ではない。なぜかというと、里山という言葉は一つの景観を表すわけではないからだ。沖縄のマングローブが密集する里海から、北海道の草地が広がる里牧まで、日本には地域によっていろいろな里山が存在する。全国的には比較的に森林が少ない千葉県にも、いろんな里山がある。また、歴史を踏まえるとすぐに気がつくのは、里山はずっと同じ姿だったわけではなく、むしろずっと変わり続けてきた景観だということだ。

つまり里山は、それぞれの地域と、その場の歴史によって異なる景観となってくるので、谷津田や平地林がないからといって「アメリカには里山がない」とは、単純には言えない。
僕が考えるに、里山はそれぞれ地域固有の景観でありながら、同時に世界中の人々にとって共通の意味合いももっている。どういうことかというと、地球上のどこにでも、ある「里」（共同体）が存在していて、その地域の「山」（自然）へ働きかけているということ。そう考えてみると、やはり里山は日本だけのものではない。

どこの国にも、地域にも存在する。もちろん、その具体的な景観は異なるけれど、人間が共同体を作り、自然へ働きかけて暮らすのは、どこにでも言えることだ。

よって、「里山」は、その地域における人間の生業と、その地域の自然との関係そのもの、と少し意味を広げて考えてみてもいいかもしれない。こうして意味を広げてみると、「里」と「山」との関係を復活する試みは、世界的な動きであることが分かる。英語でこう言う動きは「community forestry：CF」と一般に呼ばれ、近年、途上国から先進国まで、盛んになった。CFには色々な仕組みがあるが、一般に、ある「里」がある「山」を共同に利用することを示す。植民地の歴史があるインド、メキシコなどにおいては、ＣＦは、支配国が所有していた「山」を独立国家が引き継ぎ、1970年代から「里」が「山」を取り戻してきた動きのことを示す。アメリカとカナダの西部においては、公有林として産業に利用されていた「山」を1990年代から、その地域のコミュニティ（日本でいう農業集落）「里」が利用権を獲得し、利用し始めたことを示す。それに比べて、北米の東部のＣＦはもっと長い歴史を持つ。１９世紀後半から、それぞれの地方自治体（日本でいう市町村）「里」が、保全目的のために、自己資産を投じて「山」を購入した。日本の里山と同じように、この「山」は経済性を失っていてあまり管理がされていなかったが、自治体がＮＰＯを雇用して管理し、出てくる薪を売って利用したりしている。

このように、里山を、単に景観の側面だけではなくて、「里」と「山」との関係としてみてみると、はじめに着目した「アメリカに里山はあるのか？」という質問に、今度は「ある」と答えてもよいと思う。また、「里」と「山」の関係を現代的に復活する試みは、日本にとってもアメリカにとっても共通することである。

外から見た千葉県の里山活動

ちば里山センター 会長　金親 博榮

あいち海上（かいしょ）の森センター前で

去る１０月、愛知県瀬戸市の県営「あいち海上(かいしょ)の森センター」での講演に行ってきました。1回目の岩槻邦男先生（文化功労者・兵庫県立人と自然の博物館・今年の里山シンポジウムの記念講演者）に次ぐ2回目の講演者ということで、肩の荷が重く、里山活動の先進事例を話してくれるようにとの要請には、いささか気のひける心持での登板でした。話の内容は、

①「千葉県の森林分布」

千葉県の森林は県の面積の3割とあまり多くはない。代表的な森林としては、（１）平地の落葉広葉樹と常緑広葉樹の混交林、（２）海岸のクロマツ林、(3)山武林業のスギ林、(4)房州の森林、の４つに分けることができる。

全国各地と同様に手入れがされず荒廃した森林や、放置された竹林が目立っている。なかでも産業廃棄物の不法投棄は全国の廃棄物の残存量の25% を占める。

②「里山条例の制定と「ちば里山センター」の設立と目指すもの

③「ちば里山センターの事業内容と里山活動協定」

④「これからの課題」

市町村が関与し、地域住民の主体的な活動の展開および土地所有者の理解と協力がなされることによって、美しい里山(他に誇れる地域環境)の再生が図られる。継続的な資金の確保(環境税等)と法人化、後継者の育成、都市部の活動をいかに山間部へ繋げるか、官と民の役割分担、木材資源の流通・利用拡大など林業家が意欲を持てる環境づくりなどなどが今後の課題として挙げられる。としました。

これに対し、４０名ほどの、里山の専門家から、まったくの初心者まで幅の広い参加者からは、驚きの声と共に、ここまでの活動に発展していった理由、担い手の確保の方策、６年を経過しての反省と新たな問題など活発な質疑応答が交わされました。愛知県の方々といっても、日本の各地での経験を持っている方々からの発言もあり今我々が取り組んでいる活動は、他の県から見れば、里山活動グループの数、活動の内容等、相当程度先を行っている面があるのだという事を教えられた感がしました。

里山活動は、それ自身が独立したものではなく、現下の経済、国際情勢や環境と不可分な存在でありますが、その必要性は、増大こそすれ、減少する事はないというのが、我々関係者ばかりではなく、一般の見方となってきています。

この様な潮流の中で、「先進地」千葉県の誇りをもって、問題を解決しながら、日々の、地域の活動に励もうではありませんか。

「第5回エコ・フェスタ in 千葉」盛大に開催

平成２０年１０月１１・１２日

毎年盛大になっていくエコ・フェスタが今年も長柄町で実施されました。溝腐病のスギを利用したチェーンソー彫刻大会、１００人手作り村などで、ちば里山センターは里山活動のパネル展示を行いました。毎年のことですが売り上げの一部を里山活動のためにと寄付をしていただきました。

「樹木の観察会」を実施

平成２０年１１月１６日(日)

（独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金助成事業）

里山活動のなかでふと「この木は何だろうと？」と思ったことはありませんか。除伐作業のなかで自分が切り倒した木の名前がわからないことが多くあると思います。講師の広畠真知子先生には千葉県の里山のなかで見分けが難しい樹木を中心に説明をお願いして、観察会を行いました。講師の説明のうまさでしょうか、大変評判がよく、来年度も実施したいと思います

会員団体紹介

特定非営利活動法人
住みよい地域づくり推進協議会

生物多様性の里山づくりをめざして

平成６年「魅力と安心の住みよい地域づくり」活動開始。環境ＩＳＯを白井市（前白井町）が取得するとき、地域の環境保全を進めための先導役となって、自治体のＩＳＯ取得に協力しました。

平成１３年よりこの環境ＩＳＯの手法を活かし、印旛沼流域の自然環境の改善活動を開始しました。閉鎖水域の印旛沼の水質改善に有効な方法を研究するため、鹿島川の流域を調査し、その結果森林の多い泉自然公園付近の水質が一番良いことがわかりました。そこで「印旛沼流域緑のダム」プロジェクトを始め、印旛村瀬戸の荒廃した孟宗竹が繁茂する里山を整備し、落葉樹主体の腐葉土が沢山積もる里山を作りました。そこに住むカブトムシを夏休み子供たちにホームステーをお願いする「カブトムシの里親制度」で、子供たちと保護者の皆さんに生物多様性の里山の大切さを学もらいました。平成１７年より千葉県の里山条例に基づき、成田市「船形・山崎の森」３ヘクタールの「生物多様性の里山づくり」をはじめる。「鳥獣を観察するところ」「景観を楽しむところ」「植生を観察するところ」「昆虫を観察するところ」などの拠点をつくり、その間を「くつがなる道」「せせらぎの道」「すみれの道」「おちばの道」でつなぐ。そのあいだに「命塚」となる椎茸のホダギや落ち葉、風倒木などを積み上げ生き物のコロニー、周辺部に小鳥のコリドーを設け、生物多様性な里山を創っています。秋には里山一日体験活動(クヌギ林の里山でキノコの森づくり)を実施し、多くの市民に里山の大切さを知っていただくとともに、里山で採りたてのきのこを味わって里山活動の楽しさを知ってもらっています。生物多様性の里山整備を、継続的に楽しみながら活動しています。

特定非営利活動法人住みよい地域づくり推進協議会				
代表	設立年月日	会員数	活動地	活動日
理事長 那須捷雄	平成６年11月30日	個人会員33名 法人会員１社	印旛村瀬戸成田市船方	第３土曜日　他随時
住　所　〒286－0047　成田市江弁須３１６番地 電　話　0476－28－2233　Fax 0476－26－4033　　Eメール glocal@ninus.ocn.ne.jp ホームページ　http://www.asukahome.net/glocal/glocal.htm				

千葉県森林課 伊藤課長の

里山整備保全活動を語る 第３回

里山整備保全活動に対して日頃から感じておられたことを４回ほどシリーズで掲載します。

今再び「育種」への取り組み

県内の里山の抱える深刻な問題の一つが、サンブスギの非赤枯性溝腐病と松くい虫被害の蔓延です。里山活動の現場で困惑したことがある方も多いと思います。これまでさまざまな対策を実施してきましたが、思うような解決にまで至りませんでした。そこで、時間はかかりますが、「育種」の面からの取り組みを始めることとしました。

（サンブスギ）

挿し木品種であるサンブスギ（カンノウスギ）は、北総台地を中心に広く植栽されていて、県内スギ面積の約１８％を占めていますが、溝腐病に著しく弱く、平成７年調査では、被害率２５％以上の林分が、５４％に達しています。

県は、単一品種植栽のリスクを避ける意味でも、実生スギへの転換を推し進めてきましたが、品質のそろった挿し木林業になじんだ方々から、従来のサンブスギと同様の性質を持ち、溝腐病に耐性のある新たな挿し木品種を要望する声を聞くようになりました。

山武地方の大スギ（樹齢160～220年以上、樹高28～35m、胸高直径74～113cm）から挿し木増殖し、森林研究所内でDNA分析による品種系統や溝腐病に対する抵抗性などを調べています。

そこで、現場の新たな選択肢を増やす意味で、挿し木品種の開発に着手することとしました。幸い、森林研究所には、大スギと称される樹齢１００年以上のスギ大径木から選抜した77系統のクローン保存林があり、すでに27年生となっているものもあります。現在、最新手法で再度DNA分析を実施中ですが、これらの個体を元に溝腐病に抵抗性を持つ挿し木品種の選抜を行います。

（クロマツ）

かつてマツは薪炭材として数多く植栽されました。

昭和初期の時局匡救（じきょくきょうきゅう）事業では、約1万ヘクタールの森林整備に、マツ５８％、スギ３２％、ヒノキ５％、クヌギ４％で実施された記録も残っています。しかし、昭和40年代から猛威を振るった松くい虫被害により激害を受け、アカマツは房総風土記の丘や市民の森などごく一部に残っているのみで、クロマツも現在まとまった森林として管理されているのは、九十九里浜、富津岬などの海岸林のみです。

海岸林では、薬剤防除（地上散布）、被害木の駆除（チップ化）、抵抗性クロマツの植栽、潮に強い広葉樹の混植などの対策を実施していますが、被害を押さえ込めないというのが実態です。
特に10年ほど前から植栽されている抵抗性クロマツは在来のクロマツより４～５倍強いものですが、日本の激害地から選抜されたものであるため、関東地方由来の抵抗性マツの開発が待たれていました。

そこで、森林研究所では東京大学（千葉演習林）や他県の研究機関と協力して、県内海岸線の激害地で生き残ったクロマツを使って、新たに抵抗性クロマツの選抜を行っています。

新たな品種を作り出す「育種」は時間と手間のかかる地味な仕事ですし、必ずしも成果が約束されているわけではありません。ただ、そう遠くない将来に胸をはって報告ができるのではと思っています。

皆さんも、育種の視点で森林研究所の木々を見てください。将来の里山の主役がじっと出番を待っているのが見えてくるかもしれません。